

自己評価結果公表シート（平成 27 年度）

1. 学校の教育目標

- 発想力豊かな表情が明るい子ども
- 自分から進んで元気に行動する子ども
- 自然と触れ合い情操豊かな子ども
- 思いやりのある心情と感謝の心を備えた優しい心の子ども

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

子ども達が主体的に知識や基本的な生活習慣を獲得できるよう、押し付的な指導ではなく、様々な生活体験を日常的に体験することで、知性、感性、思考力を育てるよう教育課程を組み立てて実践できるよう取り組む。

今年度は、当園がこれまで継続して目標としている「気づく教育」「諭す教育」をさらに具体的に、日常の些細な行動や生活習慣を見落とさず、挨拶や返事、友達同士の助け合いや、絵画・造形活動、安全・健康面での子ども達の自主的な行いを励ますよう認め、誉め、励ましあうことを重点目標とした。

また、さらなる教育の質の向上のため、評価項目を設定し、自己点検、自己評価を実施することによって客観的に自園を見る目を養い、更なる改善と向上に取り組む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
基本的な生活習慣	A	挨拶や返事、着脱の身だしなみ、朝のお祈りと感謝の気持ち、友達同士の思いやりと励まし「小さな作法」の実践が効果的であった。
美的情操の育み	A	各学齢の発達に応じて計画的な絵画造形教育の独特な実践が幼児の感性と美的発達を、作品を通じて感じることができた。
知性と思考力の向上	A	物語や絵本の読み聞かせ、毎月のカレンダー製作、朝の会の講話、季節・伝統的行事を行った。また、年長のお茶については、保護者参加のお茶会を開き、好評を得た。
自然教育と生命の尊重	A	専門講師による栽培（大根・じゃがいも）の指導や獣医師による動物のお話し、自然環境に恵まれた園庭での自由遊びなどを実践した。
協調性・社会性の育み	B	各クラスの適度な人数構成での集団教育、全園児 300 人の異年齢による活動を行った。
安全への行動と認識	B	手洗い等の衛生教育、交通安全教室、避難訓練などの取り組みを行った。

評価項目	結果	理由
健康・食育の取り組み	B	自園での給食調理の実施により、子ども達が楽しめる独自の献立による給食の提供を行った。また、自然教育との連動で、収穫の喜びや、下ごしらえの手伝いにより「食材」の大切さや関心を育成した。
職員の資質向上	B	毎月定期的に専門講師を囲んで、その月の反省と次月の目標を確認するための学年ミーティングを行った。また、夏の外部研修にも参加し、より専門性を深めるよう努めた。
年間行事の取り組み	A	4月の入園式の行事から季節伝統行事を余すことなく保育に取り入れ、秋の野外造形展、クリスマス祝会は外部からの定評が高い。
家庭との連携、情報発信	B	毎月の「園だより」を基本にしながら、年間行事への参加。担任教師との個人面談、個々への対応、相談、定期的な懇談会を実施した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	登園時の子ども達の明るい「おはようございます」の1日が始まる期待の挨拶、帰り際の「さようなら、また明日」の元気な挨拶から、幼稚園が楽しい、待ち遠しいと感じている子ども達の姿が大きな評価につながる。

※「3. 4.」の評価結果の表示方法

A:十分達成されている、B:達成されている、C:取り組まれているが、成果が十分でない、D:取り組みが不十分である。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育・教育内容5領域の実態的な検証	年間教育課程の再検討を実施しながら、現在の子どもを取り巻く状況に合わせて、構築しなおす
預かり保育の運営	日常保育を充実させながらも、如何に預かりの園児を満足させ得るか、より具体的な課題を整理し取り組む。
子育ての環境変化への対応	家庭不安への実態への実態認識についての情報を個々の園児について把握し、出来る範囲での援助実施。